

注文票

注文 FAX 048-432-7335		
氏名:	住所:	電話:
	〒	
新書判 160 頁		
定価: 本体 1200 円 + 税		
2004 年 12 月 26 日 発行		
日本僑報社刊行した主な書籍 『中国のインターネットにおける対日言論分析』 『日中「新思考」とは何か』 『中日関係に対する戦略的新思考』 『「対日新思考」論議の批判的検討』 『中国人特派員が書いた日本』 『永遠の隣人 -- 人民日報に見る日本人』 『日中相互理解とメディアの役割』 『日中ホンネで大討論!』 『中国人の見た日本』 『日本華僑華人社会の変遷』 『中国人の日本奮闘記』 『中国の「対日新思考」は実現できるか』 『私が出会った日本兵』 『つくる会の歴史教科書を斬る』 『新中国に貢献した日本人たち』		

2004年台湾総統選挙の不正を告発する

中華民國第五屆立法委員 楊富美 著 東京経済大学名誉教授 劉進慶 監訳

著者略歴

楊富美 (写真) 1961年高雄女子中学卒業、1966年高雄醫學大學藥學部卒業、1970年米國コロンビア大学栄養学修士。1968-69年ニューヨーク大学医学センター研究員、1972-1977年ジェファソン記念病院栄養部主任、1977-97年アレキサンダー頸部脊髄科診療所理事を歴任。現在、中華民國第五屆立法委員 (2000年～)、同僑務委員 (1977年～)、中華民國海外華人超党派世界聯盟主席 (2001年～)、米國アジア太平洋医学センター副総裁 (1998年～)。



監訳者略歴

劉進慶 1931年台湾省雲林県生まれ。1956年台湾大学経済学系卒業、1972年東京大学大学院経済学研究科博士過程修了、経済学博士。1975年より東京経済大学助教授、78年同教授、同経済学部長、図書館長、大学法人理事を歴任。1985年対外経済貿易大学 (北京)、1996年北京大学客員教授。1991年米國スタンフォード大学、1992年ハーバード大学客員研究員。現在、東京経済大学名誉教授 (2002年～)。主著『戦後台湾経済分析』1975年、漢訳本 (1992年、台湾)、1992年度『中国時報』“開卷十人好書”を受賞。

(本書の「前書き」より抜粋)

【内容紹介】 台湾における民主化の発展過程は、選挙動向の変遷のなかにその重要なバロメーターが示されている。今回の選挙は、明らかに公然と選挙票の不正操作（「作票」）をして恥じない「旧時代」に再び逆行している。当初、台湾人は「選挙」が「民主」だと考えた。のちに「エセ民主」であることに気づいた。かの中樞事件（不正選挙に対する民衆蜂起事件）が発生したあと、黄信介（民進黨建党元老）はいみじくもいった。「民主政治は当面、いちおう比較的理想的な政治である。権力を取るには、以前、人頭を切ることを、より多くの人を殺した者がより大きな権力を持った。現在の民主政治は、人頭を切るのではなく、人頭を数えることになった。ただし、人頭を数えるのが正しくできなければ、人頭を切る。殺人の手段に戻るほかない。こうなれば人民はやむなく抵抗運動に立ち上がることになる。中樞事件はこのようにして起こったのである。まさに至言である。この度の総統選挙をみると、大量の「エセ人頭数」を操る選挙票の不正操作が再現した。しかし、残念ながら現在の民衆の警戒心は、以前ほどではなくなっている。マスコミも以前ほどに意気軒昂に正義の味方をかかって出なくなった。あるマスコミは、選挙をやり直すようなことになれば、台湾の民主政治の二次加害になるといふ脅しのような言論を吐いている。そして、国民党・親民党連合に「政治的度量」を求め、真実究明（「平反」）をやめるよう呼びかけている。このような誤った言論こそが民主主義に背を向け、公正選挙を永遠に葬り去り、民主を死滅させることになる。

